

韓国歴史の息吹、文化の力

公州市表敬訪問・視察研修報告

議会広報委員長 小山 暁

合併後、はじめての韓国公州市表敬訪問と併せて、熊本と深い縁を持つ百済の歴史文化を訪ねる韓国三大文化祭のひとつである『百済文化祭』の視察を兼ねて、去る10月11日から13日までの3日間の日程で韓国公州市と忠清南道を中心に訪問視察を行いました。

訪問団メンバーは、坂梨町長を団長に、福山議会議長、相沢教育長はじめ、8名の議会議員と富永日韓親善協会長他職員3名・通訳1名の総員16名で親交を温めてきました。今回の主訪問先でありました公州市とは、旧菊水町が今から28年前の昭和54年当時『江田船山古墳』がとりもつ縁で姉妹提携を結び、今日まで親善・交流を深めてきましたが、双方ともに合併を機に、昨年8月公州市から表敬訪問された公州市長との間で改めて姉妹提携が結ばれ、これまでの友好・友情の輪を更に広げていくため今回の表敬訪問となりました。



三国時代絵巻大パレード

の規模を誇る大博物館には大変驚かされました。なおこの博物館は、1945年に日本の植民地支配から解放された同時期に建設されたものであるとの説明を受けましたが、この施設を見学して、過去の歴史・文化をはじめ、貴重な文化財を垣間見ることができました。

2日目・3日目は、場所を三国時代全盛期の百済の舞台となった公州市と扶余郡へ移動して、既に県と姉妹関係にある忠清南道の『百済歴史文化館』と県立装飾古墳館の姉妹館調印式典にも参列。引き続き公州市百済の王『武寧王陵』と国立公州博物館を見学した後、700年の歴史ロマン『大百済の夢』文化遺産造形パレードでは、三国時代をほうふつさせる大時代絵巻が展開され、会場を埋めつくさんとばかり約3千人の地



百済の誕生・再発見

元地区民と高校生等の学生による大造形パレードが華やかに繰り広げられましたが、まさに圧巻という言葉がぴったりでした。海外から参加した団体や私達一行もその列に入り一緒にパレードに参加しましたが、百済の誕生から武寧王物語劇場など百済時代の再発見と体験を十分満喫できた表敬訪問となりました。



視察団一行『武寧王陵』入場門前

小・中学校一貫教育調査 特別委員会研修報告

委員長 森 恵子

当委員会は、平成19年11月6日に、福岡県宗像市教育委員会へ向うき、宗像市の小中一貫教育に携わっておられる学校現場の先生から、詳しい説明を受けました。

宗像市は平成15年4月1日に玄海町と合併、その後平成17年3月28日に大島村が加わり、人口約9万5千人、面積119.65km²で、北九州市と福岡市からそれぞれ30kmに位置する良好な立地の住宅都市となっています。市内には3つの大学、7つの中学校、15の小中学校があります。市は、平成18年度から平成20年度まで、日の里中学校区（日の里中・日の里西小・日の里東小）と大島中学校区（大島中・大島小）を小中一貫教育の調査研究校に指定・委嘱しています。学校の特徴として、日の里中学校区は『施設分離型』（ソフト一体型）、大島中学校区は『施設一体型』（ハード一体型）で行われ、これまで小中学校別々に設けていた教育目標を、児童生徒の発達段階

に応じた教育活動を重点的に行うために、前期（小学1年～小学4年）生活や学習の基盤づくりの段階と考え、学力や集団生活への適応、責任感、協調性、生活習慣を育てる。中期（小学5年～中学1年）小中学校の接続の段階ととらえ、一部教科制を取り入れ、豊かな心を育てる。後期（中学2年～中学3年）小中一貫教育の充実の段階ととらえ、9年間の義務教育を終了するに必要な諸能力を育てるとともに、市民としてより良く生きる能力や態度を育てる。等の目標を掲げて、小中の系統性を重視したカリキュラムや、小中学校の教員の交流システム、学校行事における児童生徒の交流システムづくりに取り組んでおられました。又、小中一貫教育の特徴は「兼務教員」ですが、県からの辞令を受けて、小中のいずれの学校でも授業を行うことができる兼務教員が、それぞれの学校で、得意分野を生かした授業をすることにより、中学校へ進級時の不安を解消するだけでなく、一人一人の

児童の良さや可能性を引き出し、学習意欲の向上に努めることができると考えられています。

- 「小中一貫教育における総合的な学習」では、
- ①「国際理解をテーマとする学習」（英会話活動）
前期1年生から後期9年生までが、ALTの活用を通して学習し、中学校の卒業段階までに挨拶や対応、身近な暮らしに関する話題などについて、平易なコミュニケーションができる生徒を育てる。
 - ②「ふるさとをテーマとする学習」（ふるさと学習）
前期3年生から中期7年生までが学習し、市が作成した副読本を用いて郷土を愛し、郷土の一員としての自覚を育む。
 - ③「自分の興味・関心をテーマとする学習」（セレクト学習）
中期5・6年生が学習し、児童の興味や関心から知的好奇心を引き出し、自分の学びを実感させる。
 - ④「進路をテーマとする学習」（マイ・ドリーム学習）
後期8・9年生が学習し、5日間の職業体験を通し、

これからの社会で生活するために必須の能力となる「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意志決定能力」を育てる。

等をねらいとしています。宗像市には、中学校区ごとに一つ以上の地域コミュニティがあり、保護者や地域住民の意見が、学校運営全般に反映できるように、小中学校合同で「学校運営評議委員会」が組織され、10月26日には、日の里地区で進められている小中一貫教育取り組みの中間報告会が実施されていました。大島地区の中間発表会は、11月9日に予定しているということです。

宗像市の小中一貫教育は、まだ研究の段階ではありましたが、今回の研修を通して、義務教育の重大さを認識するとともに、和水町においても小中一貫教育導入の必要性を痛感し研修を終えました。

